

学校通信



喜多見



No.9 令和5年1月30日

喜多見の学び舎
世田谷区立喜多見中学校
校長 紺谷 祥一

〒157-0067 東京都世田谷区喜多見4丁目20番1号 TEL 03-3417-4971(代)

E-mail: dai131@setagaya.ed.jp <http://school.setagaya.ed.jp/tkitami/>

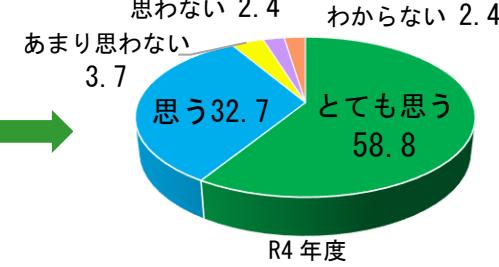
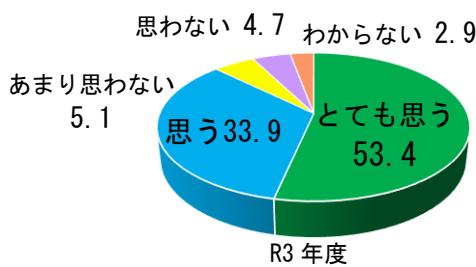
学校関係者評価アンケートから(1)

校長 紺谷 祥一

西郷隆盛の「雪に耐えて梅花麗し」の言葉の通り、正門横の紅梅は厳しい寒さの中でも新春の慶びに自ら花を添えてくれています。本年も、教職員が一丸となり、子どもたちの笑顔のために前進していきます。どうぞ引き続きご理解、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

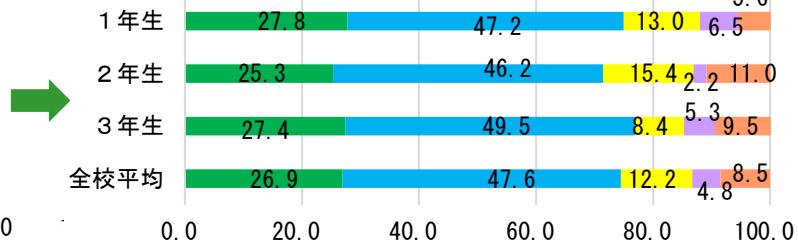
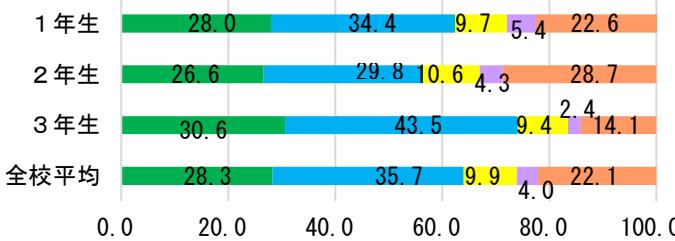
さて、昨年末に皆様にご協力をいただきました「学校関係者評価アンケート」について、結果がまとまりました。全質問項目における結果および分析、ならびに成果と課題等については、今後実施を予定しています「学校関係者評価委員会(委員長:香取葉子様)」の承認を得次第、本校ホームページにも掲載いたします。今号では、速報値と考察等を話題とさせていただきます。(中面にも関係記事を掲載しています。)

【学校生活は楽しい】(昨年度との比較)



最も基本的で大切な項目と捉えています。肯定率が91.5%に上昇した背景には、学びを止めない本校の姿勢に理解と応援いただいたお陰と感謝します。「わからない」を含めた8.5%の生徒に楽しい実感をしっかりと届けることが課題です。

【自分には良いところがある】(昨年度との比較)



全校平均の肯定率では、64%から74.5%に上昇しました。「わからない」(グラフ右端ピンクの部分)と回答していた生徒たちが、22.1%から8.5%に大きく減少したことに背景がある様子です。発達段階に応じた各学年の組みにより、子どもたちが自分自身としっかり向き合い始めている効果と分析しています。しかし、肯定率が増えた一方で、否定的な回答もまた増加しています。『自分をよく見つめた上で、自分には良いところはない…』という結論は、まだまだ自分のことを理解できていないということ。本校では、来年度も自己肯定感や自己有用感等の高まりを促す指導を重点項目に位置づけ、継続的な指導に努めます。ご家庭におかれましては、引き続きお子様を積極的に受容し、結果ばかりを褒める対象とせず、プロセスや存在そのものを認める関わりが有効です。私たち教職員も特に注意すべきことですが、“他の子との比較”は特に気をつけたい言動です。

また、特に授業に関する回答も良好であり、堅調な学力調査の結果を裏付けるデータとして手応えを感じています。「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」(肯定率 90.3%→98.0%)、「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」(同 85.6%→93.6%)、「先生は、生徒の意欲を大切にしている」(同 78.9%→89.8%)など、授業改善やそれに伴う子どもたちの主体性の増進等も捉えることができました。

いずれの項目も、100%の達成には至りませんでした。しかしながら、子どもたちや保護者、地域の皆様の声に耳を傾けながら、限りなくその域に近づくことのできるよう歩み続けます。ウェブ上の調査にはお手数をかけたと存じますが、ご協力に感謝します。ありがとうございました。

1年生の様子から（飯森有子）

3学期最初の学年集会で学年目標の4つ目「change=変える・変わる」を掲げました。2年生への進級を見据えて、自分の意識を「変える」ことへの呼びかけです。日常のささやかな行動一つでも、意識して「やる」か「やらない」か、あるいは「どのようにするか」で大きく変わってくるからです。また、学級委員会では、4月の最初に決めた学級目標が果たして達成できているかを考えてみました。もちろん忘れてはいないはずですが、果たして達成できているかな?…やはり課題があるということで、改めて、達成のための「現状の課題の改善目標」を決めました。

【A組：こころのこもった挨拶をしよう】 【B組：終学活を静かにしよう】

【C組：時間のけじめをつけて給食・学活準備を早くしよう】 【D組：授業の準備、2分前の着席をしよう】

タイマーを利用した働きかけはたいへん効果的なようで、あるクラスでは担任いわく「給食準備が劇的に早くなりましたよ。できるんじゃんと思っちゃいました（笑）」だそうです。準備が早ければ、給食もゆっくり食べられます。ほとんどの食缶が空になるほど食欲旺盛な1年生、ゆっくりと食べたいですね。それもこれも美味しい給食だからこそです。喜多見中の美味しい給食に感謝です！



2年生の様子から（大関雅樹）

3年ぶりに「百人一首大会」が学年ごとに開催されました。2年生は国語の授業での「競技指導2時間、確認テスト3回」という超短期集中仕上げで臨みました。当初はあまり興味がわかなかったのか、冬休み明けの百首確認テストでは十首以下が60余名…惨憺たる結果に競技そのものが危ぶまれましたが、周囲の心配をよそに大会は大盛況、白熱した「下の句勝負」が繰り広げられました。2~3名のグループが他クラスのグループと対戦する形式で獲得枚数を競いました。いざとなれば真剣勝負、一首ごとに一喜一憂するものの、日々の大人数での行事を皆で思う存分に楽しんでいました。

3月の「鎌倉校外学習」に向けて事前学習も始動、まずは『鎌倉ガイドブック』を制作しました。鎌倉の名所・旧跡や伝統文化、名物などから、1人1テーマを選んで調査して1ページにまとめたものを製本したクラスオリジナルのガイドブックです。教科「日本語」の朝学習の要約練習や新聞学習の成果もあって、多くの情報を分かりやすくまとめています。このガイドブックを使い、見学先の選定やコース設定の検討をします。今月末からは校外学習に向けた生活班もスタートし、準備も加速的になります。今後の活動については次号にて報告します。

3年生の様子から（川野こう子）

3学期が始まり2週間が経ちました。私立高校推薦受験、都立高校推薦受験など、一人ひとりが全力を尽くし、大きな勝負所に立ち向かい始めているところです。今後、私立高校一般受験や都立高校第一次・分割前期募集の出願、そして本番へと続いていきます。困難な道のりではありますが、学年みんなで支え合い、強い気持ちをもって乗り越えていきましょう。3年生全員の進路決定を、教職員一同願っています。コロナ以外にもインフルエンザなども流行し始めていますので、くれぐれも健康面にも気をつけてください。

「3年生の様子から」を書く中で卒業までの日数を数えてみましたが、残すところ40日を切っていました。3年生の学年目標は「伝える」—保護者の方に、先生に、級友に、後輩に……今しか伝えられないことは多いかと思います。中学校生活の集大成であるこの学年目標の達成に向け、毎日の学校生活を大切にして、充実した生活を過ごしましょう。

伝える

わたしの
授業

新年の最初の「わたしの授業」は小池 紗貴先生（1C担任、英語科、バドミントン部顧問、本校1年目）の登場です。陸上部経験のある先生は、フルマラソンを走ったこともあるとか。分かりやすく、楽しい授業が信条です。学級だよりも温かです！

「なぜ英語を勉強するのですか」という質問を生徒から受けることがあります。なかなか奥が深い質問に、教員になりたての頃は恥ずかしながらも答え方に迷い、考えさせられたことがあります。まだ教員歴は長くないですが、様々な生徒と関わってきた中で、今では自分なりの答えがあります。それは、「自分の世界を広げることにつながるから」です。私自身、英語という母国語以外の言語を学ぶおもしろさはもちろんですが、それ以上に、英語を学ぶことを通して他の国の文化について知ることができたり、普段の生活では出会うことのない考え方や問題に気付くことができたりすることに魅力を感じます。

生徒の中には、将来、日常的に英語を必要としない生活をする人もいるかもしれません。ただ、英語を学ぶという経験を通して、これまで知らなかった世界と出会い、視野を広げていってくれたらいいなという思いで、授業づくりをしています。外国語を使う楽しさ、世界について知る楽しさ、新たな考え方出会う楽しさ…楽しさを感じるポイントは人それぞれだと思いますが、授業を通して自分なりの楽しさを感じてくれたなら嬉しいです。私にとっても、みんなにとっても、まだまだ知らない世界がたくさんあるはず。みんなで楽しく学びながら、自分の世界をもっと広げていきましょう！





今号の「わたしのきたみち」は、竹内 瞭介さん（H.27 卒）。大学4年生の竹内先輩は、間もなく長年の夢だった“保育士”を現実のものとしようとしています。バドミントン部の外部指導員で見かけた際は、しっかり挨拶をしてそのパワーを分けてもらいましょう！

喜多見中学校の皆さんはじめまして！私は都立町田総合高校を卒業して、現在は「こども教育宝仙大学」という保育園や幼稚園の先生など、子どもと関わるために専門知識を学ぶ大学に通っています。また、中学の時にお世話になった木村要介先生に誘って頂き、喜多見中バドミントン部、外部指導員としても活動させて頂いています。

私は小学生の頃から地域の児童館で3~6歳の子と遊ぶ機会があったので、将来の夢は子どもと一緒に働く職に就きたいと思っていました。そのまま、中学生になっても将来の夢は変わらず、バドミントン部に所属しました。部活はほぼ毎日あり、キツい練習のなか、仲間と喧嘩をしたり、時には励まし合いながら部活をしていました。その成果もあって団体戦では都大会に出場することができ、あと1勝で関東大会に出場できるところまで勝ち上がることができました。



喜多見中学校の皆さんには、熱中しているものが1つはあると思います。部活動を頑張っている。テストでいい点を取るために勉強を頑張っている。そのような人達は自分の好きな事を、とことんして、のめり込んで欲しいと思います。そうすれば、〇〇が好きだからこういう仕事に就きたいという思いが出てくると思います。また今、熱中しているものも、好きな事もないという人もいると思います。そういう人は自分の身の回りにある興味のあることや、自分はこれをしている時は笑顔でいられるな、というものがあると思います。中学校生活の3年間は一瞬で過ぎてしまいます。楽しいことも辛い事もたくさんあると思いますが、今を笑顔で頑張って全力で楽しみながら学校生活を送ってください！みなさん1人ひとりが楽しい学校生活を送れるよう願っています。（写真：木村先生とのツーショット）

「保護者による自由意見」（抜粋）とその回答 学校関係者評価から（2）

今年度も学校関係者評価アンケートでは自由記述欄を設けました。教職員のコロナ禍での諸々の取組みに対し、たくさんの感謝や慰労の他、ご指摘や貴重なご意見等をお寄せいただき感謝申し上げます。本コーナーでは、すぐにご回答できる事柄を抜粋（一部表現改）し、現在の学校の検討状況等をお伝えいたします。

1. コロナ対応で、ジャージ登校が可能になっていますがそろそろ必要ないのでないでしょうか？夏はジャージから水着に着替えを行っているので、標準服から体操着に着替えるのと同じだと思います。
→ 標準服の着用頻度が少ない、という同様のご意見を複数頂戴しています。給食指導や儀式的行事等はじめ、区をあげて様々な教育活動を通常の姿に戻す傾向にあります。現在の感染症第8波の状況にもよりますが、標準服を基本とする生活サイクルへの移行についても、本校ではそのタイミングについて図っているところです。課題は、既存の更衣室が「3密」を避けられるほど十分な空間が確保できない点にあります。そこで、保健体育（実技）のない日は原則標準服登校とし、更衣をしたい生徒や部活動で更衣の必要な場合に体育館の更衣室（男女とも確保）を利用するものとするよう、変更を検討中です。（開始日については、後に連絡します。）
2. 学習用タブレットについて。コロナを契機に様々な環境変化があり、授業がオンラインでも受けられるようになったことや学習成果の発表等に画像や動画を使用できるようになった点はとても良かったと思います。ただ、ネット利用に対するデメリットや怖い点、利用方法によっては犯罪の加害者にも被害者にもなりうる点についての指導が数回だけで、定期的にされていない点や子供達がどこまでそれを理解しているかの確認がなされていない事、それを家庭にだけに委ねている点は、悪い点であると思います。特に、YouTubeなどは見られないような設定にしてほしいと思っています。
→ デジタル化に伴う学習効果や利便性、有用性等は非常に大きく、教育環境の変化はコロナ禍で一気に加速しました。この一方で、「影（=デメリット）」の部分は特定のサイトへのアクセスを制限などしても、物理的に取り去り切ることのできない課題と捉えています。次年度「DQ (Digital IQ) の向上」を重点の1つに置くなど、引き続き発達段階に応じたネットリテラシーの醸成を目指して実効力の高い指導の展開に努める予定です。本課題は各家庭との連携が不可欠です。お子様のご家庭での心配な様子については、ぜひご相談ください。
3. 受験に関する情報があまりないので連携いただきたい。（同世代における自身の状況、各高校のランク等）
→ 1. 2年生の早い段階から具体的な進路情報を得たい、というご意見は時々頂戴します。原則3年生保護者を対象に実施している年2回の進路説明会をよりオープンにしたり、昨夏実施して大変好評だった単位PTA研修（大手進学塾から講師を招いた勉強会）の継続実施の検討をいただいたりするなど、積極的な情報提供に努めます。また、卒業生から生徒が直接アドバイスを受ける機会についても検討したいと考えておりますので、その際にはぜひご理解とご協力を願いします。



喜多見中の先生は相談しにくい?

学校関係者評価から(3)



今回の学校関係者評価アンケートでは、本校の相談体制についての評価が芳しくなかったことを重くとらえています。昨年度の反省から、特に「教育相談部」を職員分掌として立ち上げ、一層個別に応じた寄り添った指導や支援の展開をめざして取り組みましたが、大きな改善には至りませんでした。

- 「先生たちは、生徒が相談しやすい」全体肯定率：68.3% (同1年生:73.2% 2年生:59.4%、3年生:71.6%)
○「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」 同:65.4% (同1年生:71.1% 2年生:56.9%、3年生:65.7%)

この結果を受け、全職員とは平素の傾聴姿勢の振り返りや「子どもに向き合う時間」の確保等について、再度見直すことを確認しました。“悩みや不安のない中学生はいない”・“不安や不満のない保護者もいない”という共通理解のもと、子どもたちをはじめ保護者の皆様にとって、「頼りになる喜多見中」をめざします。

下は、本コラムの企画に際し、執筆をお願いした相川スクールカウンセラーからのメッセージです。火曜日と木曜日はスクールカウンセラーの出勤日です。こちらも、遠慮なくご活用いただければ幸いです。

「こんなことを先生に相談してもいいのでしょうか。」と、保護者の方に聞かれことがあります。この場合の「先生」というのは、カウンセラーを指すこともあります、担任等の教員である場合もあります。学校にはたくさんの生徒がいるのに、自分の子供一人のことを相談してよいのだろうか…とか、それほど深刻なことではないかもしれない、学校に頼らず自分で解決すべきだろうか…などとためらわれてのご質問かもしれません。そのようなとき、私はほぼ必ず「もちろんです。どうぞ相談なさってください。」というようにお答えしています。

相談は、誰かに頼ることではなく、相談される方がご自身の持っている力を使って、問題解決や状況の改善に向かって考えたり、行動したりすることであると思います。話しているうちに自分の思いや考えに改めて気づいたり、一人で考えているのでは思いつかないアイデアが出てきたりすることもあります。学校の職員は、子供たちの成長を保護者の皆様と一緒に促したり支えたりするためにいます。すぐに解決策が見つからない場合でも、時間をかけて、ご一緒に考えていくことができます。お子様に関することは、どんなことでもご相談いただければと思います。

おめでとう、稲葉 唯さん 第13回 世田谷ガリレオコンテスト ドリーム賞 受賞



このたび、2年A組の稲葉 唯さんは、区内各中学校より集められた全2596点の作品の中から、見事に一次審査を通過した9作品に選ばれ、21日(土)に行われた第13回「世田谷ガリレオコンテスト」での発表を経て、見事「ドリーム賞」を受賞しました。“ベタの観察”と題された研究は、飼育する熱帯魚ベタの体色の変化や泡巣と言われるその独特的の繁殖行動等を愛情深く観察したもの。区教育総合センターで行われたプレゼンは、稲葉さんの優しい眼差しを随所に感じさせる素晴らしい発表となりました！



2月の予定から

- 2月 2日(木) 都立高校推薦入試合格発表
4日(土) 土曜授業 ※着こなしを考える日
学校保健委員会(ご来校ください！)
10日(金) 第2回新入生保護者説明会(動画配信開始)
15日(水) 学び舎の日(小学校の先生方が来校されます！)
21日(月) 都立分割前期・一次入試(～22日、発表3/1)
22日(水) 学年末考査(24日、27日)



2月の相談室の開室日

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	1	2	3	4

【担当SC】□:相川 ○:高瀬

【場所】相談室は中央校舎1階 保健室の隣です

入学ご予定の見直し保護者の方のご相談もお待ちしています！

相談室直通ダイヤル
03-3417-5372

学校保健委員会

- 日 時：令和5年2月4日(土) 講演会：2校時(9:50～10:40)
終了後に懇談会(10:50～11:20)あります ※対象：参加保護者
会 場：本校体育館 お問い合わせの上、ぜひご参加ください！
内 容：健康講話「ぐっすり眠って心も体もすっきり」
講師：快眠セラピスト 三橋美穂先生

人生の3分の1を費やすといわれている「睡眠」をもう一度しっかり見直してみませんか？間もなく3年生への進級を控える2年生とともに、快眠がいかに有効で必要であるか理解を深めます。